

第53回 大磯町下水道運営審議会議事録

日 時 平成26年7月28日（月）午後1時30分～午後3時50分

場 所 大磯町役場 本庁舎 4階 第1会議室

出席者 委員）梶田委員（会長）、土方委員（副会長）、菊田委員、笠原委員
中越委員、川口委員、坪井委員、安藤委員、加藤委員
以上9名
事務局）二椏木都市建設部長、平田下水道課長、服部副課長兼係長、藤野主事補

議事

（1）下水道使用料の改正について

（2）その他

○ 開会

事務局

ただ今より「第53回大磯町下水道運営審議会」を開催いたします。

本日は、曾根田委員より欠席が入っています。

二椏木都市建設部長よりあいさつ

梶田会長よりあいさつ

事務局

本日の出席委員は、9名であり、下水道審議会規則第6条第2項の規定により会議開催の定数に達しております。よって会議は成立しております。

本日の審議会の議事として、(1)「大磯町公共下水道使用料の改正について」、(2)「その他」でございます。よろしくお願いいたします。

また、今回の会議につきましては、議事録を作成するため録音をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、大磯町下水道運営審議会規則第6条第1項の規定により、会長が議長になることになっておりますので梶田会長、議長の方よろしくお願いいたします。また、本日の審議会の公開につきましては、当日の委員に諮ることになっておりますので、これにつきましては、議長よりお願いいたします。

議長

それでは、まず、事務局より説明がありましたように、会議の公開については、委員の皆様のご意見を聞くということですので、これからお諮りしたいと思います。

本日の議事は、前回に引き続き、「大磯町公共下水道使用料の改正について」となって

おります。

個人情報に係るものではないため、会議を非公開とすべき事項ではないものと考えられますが、委員の皆様どうでしょうか。

委員了承

議長

会議傍聴の確認及び承認（傍聴者1名）

傍聴人（1名）

議事に入るにあたり資料の確認を事務局よりお願いします。

事務局 資料確認

議長

まずは、第52回下水道運営審議会の議事の確認をお願いします。

事務局 議事録の要点説明と修正

議長

資料1「平成24年度下水道使用料改正に係る検証について」事務局から説明願います。

事務局 資料1及び参考資料について説明

○参考資料の「下水道使用料改定について」説明

平成23年度に下水道使用料の改正を行ったときの考え方を整理している。

○資料1「平成24年度下水道使用料改正に係る検証について」説明

①1ページ

- ・平成24年度下水道使用料改正時の推計と実績について検証を行った。
- ・有収水量、接続件数、水洗化人口、使用料対象経費の基礎数値について、推計と実績に大きな開きがあった。現状は、計画どおり整備が進んでおらず、それが、数値の差異として現われたものと推測される。
- ・繰入金充当率について、平成25年度の推計と実績を比較すると、ほぼ同等であったが、繰入金減額の累計については、平成25年度末で、推計が36,545千円、実績が23,716千円で、約13,000千円程度下回った。
- ・その要因としては、使用料改正が3ヶ月遅れたこともあるが、整備の遅れにより水洗化人口が推計に達しなかったためと推測される。

②2ページ

- ・「平成24年度近隣町との下水道経営状況比較表」を大磯町について、平成23年度と平成25年度を加えて、再度提示した。
- ・使用料を改正したことより、経費回収率は年度ごとに上昇してきているが、近隣町と比較するとその数値は約半分となっている。

③3ページ

- ・本町の経費回収率が低い原因を把握するため、国が公表している調査結果をもとに、県下市町公共下水道事業経営状況を一表にまとめた。
- ・使用料については、県下町平均と比較すると一般家庭使用料はやや高いが、使用料単価はやや低かった。
- ・汚水処理原価については、本町は真鶴町に次いで第2位と高く、資本費（起債償還金及び起債利子の一部）に係る原価も第2位と高いことが要因であることが判断される。
- ・汚水処理原価（資本費）が他町と比べて高いことが、経費回収率を低くしている要因と判断される。
- ・葉山町については、汚水処理原価に資本費を含めていないため、汚水処理原価が安く、経費回収率が高くなっている要因と推測される。
- ・寒川町と二宮町については、処理区域内人口1人あたりの起債残高が少なくなっており、既に起債償還金及びその利子の返済のピークが過ぎているため、汚水処理原価の資本費が低くなっているものと推測される。

④4～6ページ

- ・本町の下水道建設費（管渠費）の状況を把握するため、国が公表している調査結果をもとに、県下市町公共下水道事業概況を一表としてまとめた。
- ・下水管布設延長1km当たりの管渠費（千円/km）については、県下町平均やや高いが、寒川町・二宮町と比較すると低くなっている。
- ・処理区域面積当たりの管渠費（千円/ha）については、県下町平均と比較すると高く、寒川町・二宮町と比較しても高くなっている。
- ・処理区域面積当たりの下水管布設延長（m/ha）が県下町平均に比べ長く、寒川町・二宮町と比較しても長い場合、処理区域面積当たりの管渠費が高くなっていることが要因と考えられる。

議長

ただ今の事務局からの説明について、ご質問、ご意見があればお願いします。

委員

素朴な疑問なのですが、資料1の「平成24年度下水道使用料改正の検証（その1ある推計値と実績値がこれほど大きく離れている原因は何か。

事務局

基本的には、推計した時点においては平成30年度までに全て市街化区域を終わらせ、それに対して接続率も上昇するだろうという形の中で有収水量を算定しております。したがって実際は、計画通りにいっていない部分があります。整備計画に対して、実際の整備率がそこまでいっていない中で、供用開始も遅れていて、結局、下水道に接続している人も少なくなっています。このような複合要素で、実績値が推計値まで至っていないと私は判断しております。

委員

ハード面の遅れがあって、それに対して接続する方がまだそこまでいっていないということか。そうすると基本的には、いつの時点でハード面が計画に追いついてくるのか。

事務局

本質問については、資料2のほうでこれから説明させていただきます。なお、資料2で説明する方でも数字は若干高めになっていることは事実ですが、なるべく現実に合わせていきます。「平成30年度までに全て終わらせるにはどうするか。」ということに合わせてこちらの資料で提示させていただいております。なお、資料の実績の部分における有収水量については、実績量であり、それに基づいて資本費の回収率などが記載されております。

委員

推計は平成23年度時点で、出しているということか。

事務局

実際は、平成22年度の全体計画の見直しという形で、見直している数値の中でこの数値を出しています。その時点で平成30年度までに全て終わらせるという形でございました。その推計をつくってやったらどうなったのか、という数字だと判断しております。

委員

下水道使用料を9%あげたらどうなるか、ということも実績ベースであげた場合とあげなかった場合で考えるということか。

事務局 そのとおりです。

議長

他の市町との比較に関して何か、ご質問、ご意見があればお願いします。

委員

トータル的に数字が多すぎて、理解しがたい。要望なのだが、ポイントをまとめたもの、他の市町と比較をした上でのこの表の評価のようなものを次回は教えていただければと思う。

事務局

次回までに評価をまとめたものを提示します。

委員

資料1の3ページ「平成24年度神奈川県下市町公共下水道事業経営状況」について、大磯町の汚水処理原価が県下で第2位の高さである。この汚水処理原価が他の市町と比べ

て突出して高い。真鶴町は整備が全然進んでいないので仕方ないとして、この一番の原因は何か。

事務局

記載の償還に関わる元金と利子について分流式下水道を利用する経費を除いて、ここに汚水処理原価の資本費として計上しています。この金額が他の市町と比べて高いということでございます。維持管理費については、平均に比べると低い形になっております。基本的には、汚水処理原価の中の資本費の元利償還金が高いということです。というのは、起債の額が大磯町は多く、それに対して返済するほうも多いということです。本町は建設事業が整備半ばの状況であり、整備が進んでいる市町は返済金額も少なくなっているため、それはよく見ないと、他市町と単純に比較することはできません。

委員

汚水処理原価の資本費が277円と高いが、今後、元利償還金がかかなり高いレベルで推移していくとの見込みか。

事務局

はい。まだ、当分の間はお金を借りていくので、元利償還金の下がるには時間がかかるであろうと判断しております。

議長

資料2「大磯町公共下水道事業費の今後の見通しについて」事務局から説明願います。

事務局より資料2について説明

- ・ 下水道工事単価の設定
汚水管渠…既計画の15%増し
雨水管渠…既計画の20%増し
- ・ 年度別整備計画
平成24年度の落ち込みを解消するため、新たに、平成30年度までに認可区域の整備が完了する計画に補正
全体計画終了するまでの建設事業費は、約96億円
- ・ 維持管理費の算出
維持管理費は、汚水の処理を行っている流域下水道に係る費用と公共下水道の管渠・マンホールポンプ場に係る費用とを算出
- ・ 起債償還費
起債償還額の算定の条件について説明
- ・ 事業費財源の算出
下水道事業の財源（国庫補助金、起債、受益者負担金、下水道使用料）について説明

・財政計画書

本整備計画に基づく、総事業費は平成 27 年度から平成 30 年度にかけて年間 20 億円以上の多額の経費が必要

・均等化した整備計画

これまでの実績では、直近の平成 20 年から平成 24 年では約 14 億円程度で推移していることから、H25 予算、H26 予算（案）と同程度の管渠工事費で整備するケースで試算

本計画では、認可区域の整備は平成 32 年度に完了し、全体計画区域は平成 36 年度にほぼ完了する見込み（既計画の 2 年延伸）

下水道使用料については、消費税込みで再計算

均等化した整備計画を基に下水道使用料の改正の基礎数値として採用

議長

ただ今の事務局からの説明について、ご質問、ご意見があればお願いします。

委員

水洗化率について、平成 24 年度と比べて、だいたい同じように推移していきだろうと、あるいはそれ以上だろうという考えで、この率を出しているか。

事務局

水洗化率のほうは、表のとおり徐々に、年度ごとに、11 年で 100%になるという推計をしております。使用料については、一応 3 年ごとに 9%ずつ上げさせていただくという試算をしておりますが、委員の皆様との議論が必要です。この資料は全体事業について説明しておりますので、実際、個別の使用料は一般家庭におきかえてどうなるのか、そういったものについてはもう少しわかりやすい資料を次回に出させていただきます。町としては、施設整備が半ばであることや消費税増税等も考慮して今後は説明させていただきたいと思っております。

議長

資料をもう少しわかりやすくしてほしいということも含めて、ご意見があればお願いします。

委員

資料 1 にある平成 24 年度の料金改定の関係について、そのへんが今回の見通しの中ではどうなのか。財政計画でつくったものと実態が合うようにと考えているか。

事務局

国庫補助が平成 25、26 年で、2 億 6 千万円ほど見込んでいるのですが、実際に来ているのは今年度は 2 億を下回る状況もありますので、これから 4 億もらっていくというのはなかなか難しいかと思っております。国庫補助、起債や繰入金を考慮して示しております

すが、実際の事業に近い数字で入れております。

委員

県の流域下水道の建設費の国庫補助もこの5年位ずいぶん減らされている。おそらく国庫補助というのは、現状でやっとなんかという部分があるだろう。国の財政も厳しいので、かなり厳しい状況だと思えます。見込みでたくさん増えるというのは、厳しいと思う。

議長

他に何かございませんか。

委員

下水道使用料の回収率というのは、他の市町村の回収率と比べてだいたいどのくらいなのか。

事務局

資料1の3ページをご覧ください。神奈川県下市町村の回収率が出ております。右から数えたほうが早いので、右から6つ目に、大磯町は黒枠で記載されております。

委員

全体的に回収率が低いということか。

事務局

そのとおりです。

委員

たしかに大磯町の経費回収率は低い。他の市町村の内容を見ると、項目が一律ではないから、一概に経費回収率が低いから遅れているとか、そういうことではない、ということか。

事務局

経費回収率は上げていかなければならないのですが、整備半ばというなかで多くの費用が発生すると、借入金を返すという形ではねかえってきます。ゆえに、整備半ばの市町村と、整備もほぼ完了し借入金の返済もピークを過ぎていると市町とはだいぶ差が出てくる。経費回収率の維持管理経費についてはどの市町にも関わることで、資本費については借入金を返済している金額ですので、市町村ごとに異なります。借入金が多いほど、資本費に係る経費が多くなるので、経費回収率が低くなります。すなわち、整備半ばの時期にある市町では、経費回収率は低くなります。他の資料を見ると寒川町でも、整備半ばの頃は同じような状況にあったようです。

委員

身の丈にあった整備計画を前提として、運営審議会に諮問しているその下水道使用料についての議論をこれから進めていくという理解で良いか。

事務局

そういうことです。

委員

計画が達成できなかった部分を見極めた上で、今後の目標を設定していかないと、同じことの繰り返しになると思う。

事務局

もう少し整備率を下げるという考えもありますが、あまりにも整備率を下げると、後年度に借入金の返済等を回していくという形になってしまいます。たしかに、身の丈に合わせることも必要ですが、そのへんの事情を兼ね合いを整理したものが資料2の均等化した整備計画です。もっと先延ばしにする計画も設定できますが、高齢化が進むなかで、整備が頓挫することにはならないか、整備率を下げれば財政的には平準化しますが、後年度負担が大きくなります。この計画以下に下げていくとかなり整備が遅れていくので、下水道事業を推進していく立場としてそれはまずいのではないかと考えています。

会長

もし何か分からないとか、資料がほしいとかありましたら、随時事務局に言ってもらえればと思います。

それではよろしいでしょうか。

事務局

それでは、これをもちまして、第52回下水道運営審議会を終了させていただきます。

3時50分終了